

こちら 道立羽幌病院 です

小児科 須貝先生のお話し

「けいれん」



「けいれん」とは、自分の意志に関係なく、急に筋肉が収縮した状態をさします。

経験された親御さんでしたらお分かりかと思いますが、手足がガクガクとふるえ、目は白目をむいて呼んでも答えず、よだれを垂らしたり、便をもらしたりもします。

はじめて我が子がけいれんを起こしている姿を見たときは恐ろしさを感じるものです。子どもで救急車を呼ぶ一番多い理由はこの「けいれん」です。

ひとこと、「けいれん」を起こしたときに真っ先に行うことを教えましょう。それは、吐いたものでのが詰まらないうような姿勢をとらせることです。そして、急いで病院（あるいは救急車）に連絡して受診することです。

もしできれば、発作がいつから起こったか、正確な時刻

を覚えておかれると後で役に立ちます。（できれば、ですよ）

「けいれん」の原因のほとんどは熱性けいれんです。てんかんも多く、その十分の一くらいです。てんかんは頭の中の細胞が放電して起こる雷みたいなもので、成長期である小児期にはよく見られる病気です。いずれも対応については主治医の指示に従ってください。

なお、おじいちゃん、おばあちゃんに一言、熱性けいれんやてんかんは意外と経験者が多い割には「偏見」もまた多い病気です。けいれんは小児全体の数%から10%くらいが起こっているとわれ、けいれんを起す可能性は「誰にでも」あります。「誰にでも」です。

いわれのない「偏見」に悩む人が少なくないので正しく理解していただきたいと思えます。